



Title	運動クラブの精神衛生学的考察
Author(s)	吉里, 哲
Citation	長崎大学教養部紀要. 人文科学. 1970, 11, p.109-118
Issue Date	1970-12-25
URL	http://hdl.handle.net/10069/9588
Right	

This document is downloaded at: 2019-04-24T16:12:33Z

運動クラブの精神衛生学的考察

吉 里 哲

A Study of the Mental Hygiene in a Sporting Club

SATOCHI YOSHIKAZU

1. 研究の目的

スポーツを経験することによる性格への影響として、運動部の集団構造・規範・態度等を追求した報告はかなりの成果を見ることができ、運動部員の精神衛生的分野の研究は少ないようである。最近学徒のスポーツ試合は、小体連・中体連・高体連等全国的に益々大型化し、学校教育の制度内で自主的教育活動としての運動部は、選手中心の勝利主義の対外試合に傾斜し、学校教育活動以外のスポーツ活動といった方がよいぐらいスポーツ団体化して来ている。

そのために選手強化対策の一つとして各学校とも試合前は勿論のこと、夏期・冬期の休暇中には、単独或は他チームとの合同合宿が頻繁に実施され、部員である選手は強化スケジュールのもとで、技能向上・根性づくりに猛練習を強いられている。斯様な環境の中で運動部員は如何なる精神的徴候をあらわしているか、その具体的徴候を明らかにし、精神衛生の分野より運動部員の情意情動を考察しようとしたのである。

2. 研究の方法

- a) 調査の項目：調査は田研式診断性向性検査とUPI検査を用い、診断性向性検査と第1回UPIテストは各校とも、合宿開始第1日目に検査し、UPIテスト第2回目は、合宿終了の最終日に検査した。
- b) 調査の対象：調査は実業高等学校男子(A)30名、普通高等学校女子(B)25名、及び実業高等学校女子(C)16名である。A校の男子ラグビー部は、国体ラグビー強化指定を受けたチームで、県高体連大会では準優勝を経験している部員である。43年8月19日より8月25日迄6泊7日の他校との合同合宿。B校の普通高校女子運動部員は、バレー・バスケット部員で強化指定を受けているチームではないが、毎年単独合宿を実施している運動部で、合宿期間は43年7月31日より8月6日まで6泊7日である。C校女子ハンドボール部は国体強化指定校で優秀な成績を有する部で、合宿経験も豊富であり、42年度は熊本チームと1週間、冬期には山口県チームと合同合宿2週間の合同合宿を実施し、8月14日より再度単独合宿に入ったもので、8月14日より8月18日まで4泊5日の期間である。

c) 調査の手続きと整理

運動部員の性格特性と精神的諸徴候との関係を、事例的に検討するため、田研式診断性向性検査を使用し、検査手引にしたがって実施し、標準点に換算、各特性因子群の偏差値を算出した。又精神的徴候群としては、スクリーニング用として使用されている、UPIテストを用いて検査し、合宿初日と終了日の2回検査を行い、インベントリによる応答にて得点を集計し、向性検査偏差値とUPI得点との対比により、精神的徴候の具体的内容を調査した。

3. 結果とその考察

第1表 診断性向性検査プロフィール

性別	向性因子	偏差値	プロフィール
男子 (30人) A校	A 社会的向性	47	
	B 思考的向性	59	
	C 劣等感	50	
	D 神経質	53	
	E 感情変易性	53	
	一般向性偏差値	52	
女子 (25人) B校	A 社会的向性	48	
	B 思考的向性	52	
	C 劣等感	41	
	D 神経質	47	
	E 感情変易性	58	
	一般向性偏差値	49	
女子 (16人) C校	A 社会的向性	51	
	B 思考的向性	56	
	C 劣等感	48	
	D 神経質	49	
	E 感情変易性	53	
	一般向性偏差値	51	

第1表は診断性向性検査の全体的傾向をみるために、各特性因子群の平均偏差値によって比較したものである。A・B・Cの各運動部集団プロフィールは、全体が平均化され、集団としての特徴はあまり出ていないが、男子A校は特徴としては思考的外向性をややあらわしている集団であり、B校女子集団は、劣等感・神経質の因子群でやや内向的傾向を示し、感情変易性も外向性で感情の変り易い特性をあらわしている。

C校のハンドボール集団は、思考的向性はやや外向的であるが、いつれの因子群も平均化されたプロフィールを画き、片寄りのない安定した情緒集団であると推定される。

参考として検査手引より、因子群についての内容を抜萃してみるとつぎのごとく述べている。

A 社会的向性

偏差値の高い者は、社会的生活において外向性であって、人とよく話し・友達も多く・世話もよくみる社交家である。偏差値65以上は超外向性で、派手すぎて・おしゃべり・出しやばりで落付きがない。偏差値が低い者は、内気で友達も少なく・孤立的であり・特に34以下の超内向性の者は、ほとんど人と話をせず、発言もしないし好ましくない。

B 思考的向性

偏差値の高い者は、考えの上で外向的であることを示す。思考の面でのんびりとしており・楽観的に解釈し・くよくよしない。自分の意見を平気で人に話したり・あまり深刻に反省したりしない。偏差値65以上は超外向性である。

偏差値の低い者は、考えの上で内向的で・理想的空想的であり・理論に走りすぎるきらいがある。34以下の超内向性になると、それが極端になり、物事を深刻に考えすぎ孤立してしまう。

C 劣等感

偏差値の高い者は、外向性であって劣等感や失敗感の少ないことを示す。自己を過大に評価し、楽天的である。偏差値65以上の超外向性になると、それが極端になり独善的に走ったり・他人を小馬鹿にしたりする。偏差値の低い者は、劣等感や失敗感があることを示す。特に34以下の超内向性になると、自己の無能力をなげいたり・悲観的に考えたりする傾向があり、自殺をしようと本気に考えたりする。

D 神経質

偏差値の高い者は、外向的な人で神経質傾向が少ないことを示す。大ざっぱで小さいことにこだわらない。しかし偏差値65以上の超外向性の者は、無頓着・無神経であって人の感情などを考慮に入れるようなことも少ない。偏差値の低い者は内向性であって、神経質傾向の多いことを示し、特に34以下の者は超内向性で、自分の失敗や恥をいつまでも気にしていたり・潔癖すぎて人に好感を与えない。

E 感情変易性

偏差値の高い者は、感情が変り易いことを示す。65以上の超外向性はそれが著しく、対人関係で相手が迷惑することが多い。偏差値の低い者は、感情があまり変らない・いつも静かで落ちついていて物事に慎重である。しかし偏差値34以下の超内向性の者は、喜怒哀楽を表現しない傾向があり無表情である。

第2表はUPIの得点を1—9・10—19・20—29・30—39・40以上の5段階に区分し、その実数と得点率をあらわしたものである。第1回テストでA男子は19点以下の者43%、C女子37.5%、B女子運動部は特に少なく20%であり、各校とも20点以上の高得点者が、極めて多い

第2表 UPI検査段階得点表

性別 区分	段階区分	1回目の実数	得点率	2回目の実数	得点率
男子 (30人) A校	1 — 9	4人	13%	6人	20%
	10 — 19	9	3%	12	40%
	20 — 29	12	40%	4	13%
	30 — 39	4	13%	8	27%
	40 以上	1	3%	0	0
女子 (25人) B校	1 — 9	0	0	0	0
	10 — 19	5	20%	6	24%
	20 — 29	12	48%	12	48%
	30 — 39	5	20%	4	16%
	40 以上	3	12%	3	12%
女子 (16人) C校	1 — 9	0	0	4	25%
	10 — 19	6	37.5%	9	56.2%
	20 — 29	5	31.2%	3	18.8%
	30 — 39	5	31.2%	0	0
	40 以上	0	0	0	0

事を示している。

UPIテストの得点と異常症候（参考）

特にB女子集団は、第1表の向性検査プロフィールで画かれた如く、劣等感・神経質・感情変易性に夫々問題を内在している集団で、UPIの検査においても、高得点者が他の集団より特に多くあらわれていることは、スポーツ・トレーニング、或は合宿訓練等に

得点	面接	精神異常分類				
		分裂病	うつ病群	神経症群	神経質傾向	異常なし
1—9	6	0	0	0	0	6
10—19	8	0	0	0	3	5
20—29	8	0	1	6	1	0
30—39	18	0	3	13	1	1
40以上	4	0	3	1	0	0
計	44	0	7	20	5	12

(厚生補導 1967 6号)

において、精神衛生上等に配慮しなければならない問題点を、提供していると考えられる。このことはB集団のみに限ったことではなく、優秀な経歴をもつC集団、A集団男子に対しても同様で、UPIテスト第2回目は若干軽減されているが、A40%・B76%・C18.8%と高率を示している。京都大学1年次学生に対するUPIテストの結果、各段階から任意に抽出された44名の学生に対する精神医学的診断では、次表のような精神異常の潜在的危険学生を検出している。

そのほとんどが20点以上の得点者に集中し、特に40点以上及び30点台のすべてが、要治療がのぞましいと判定されている。

従来運動部の訓練は、もっぱら体力技術の徹底的な訓練に関心が集中し、より高く・より速く・より強くというのが、指導者の訓練目標で人間の生物的能力のみが陶冶対象になっていた。

彼等の精神機能は根性づくりに集約され、情意を中心とする精神性は、かえりみられなかつ

たのが現状であらう。運動愛好者という一般化された概念即ち明朗・快活・愛想がよい・社交的で・常に活動的であるという範疇にあるものと規定され、技能訓練にのみ終始されてきた。

しかしUPIテストで明らかのように、彼等は情意の多岐にわたる問題を内在している。

第3表 UPI検査項目別得点表

項目	性別						項目	性別					
	男子		女子		女子			男子		女子		女子	
	A	B	A	B	A	B		A	B	A	B	A	B
	1	2	1	2	1	2		1	2	1	2	1	2
	回	回	回	回	回	回		回	回	回	回	回	回
1 頭痛がする	15	13	13	10	9	3	33 胸やけ, 胃腸が痛む	16	9	14	11	12	3
2 不眠がちである	11	10	11	9	0	6	34 食欲がない	18	10	7	6	3	6
3 顔がほてったり, 冷える	5	5	13	13	2	0	35 わけもなく便秘やげりをする	4	6	9	5	1	0
4 めまい, たちくらみがする	19	15	13	15	5	1	36 排尿が気になる	1	3	0	0	1	0
5 顔すじや, 肩がこる	10	16	15	19	8	4	37 性器のことが気になる	2	1	3	2	2	0
6 いつもからだの調子が良い	6	3	8	4	8	8	38 気分があかるい	14	16	16	14	14	14
7 気が小さい	17	15	14	16	12	7	39 こだわりやすい	10	7	19	14	12	4
8 とりこし苦労をする	18	10	16	11	6	4	40 たしかめないと気がすまぬ	15	8	19	12	10	8
9 つきあいが下手である	16	12	11	13	2	2	41 自分の過去や家庭は不幸	5	4	3	3	1	0
10 人に頼りすぎる	8	13	15	17	8	8	42 将来のことを心配する	18	11	16	14	12	7
11 ひけめを感じず	12	8	16	17	13	5	43 親が期待しすぎる	13	8	4	3	4	2
12 記憶力が低下している	16	10	12	9	2	2	44 つまらぬ考えがとれない	6	7	12	8	3	0
13 考えがまとまらない	13	12	15	15	8	4	45 独りしているとおちつかない	8	6	4	7	5	5
14 根気がつづかない	15	15	14	18	6	5	46 人に会いたくない	2	3	5	4	1	1
15 気分がかわりやすい	12	10	13	16	7	6	47 他人の視線が気になる	11	8	13	14	4	3
16 決断力に乏しい	14	16	15	15	7	7	48 周囲の人が気になる	9	10	15	13	6	2
17 眼がつかれる	16	12	8	7	7	2	49 身体がつかれやすい	22	19	18	16	9	7
18 動悸や脈がきになる	6	5	2	3	4	0	50 かぜを引いた感じがする	10	9	12	6	6	3
19 胸がしめつけられる	8	8	7	7	7	1	51 気にすると冷汗が出やすい	9	8	3	5	4	1
20 どもったり, 声がふるえる	7	6	6	5	2	0	52 貧血を起こしたり, 気が遠くなる	4	5	7	5	1	0
21 手がふるえる	1	3	9	11	1	0	53 へんなにおいがする	0	1	0	1	0	0
22 いつも活動的である	13	10	12	9	14	10	54 よく他人にすかれる	13	12	9	10	7	9
23 不平不満が多い	9	11	8	14	6	6	55 自分を意識しすぎる	14	10	15	8	8	7
24 いらいらしやすい	14	14	14	17	12	7	56 気をまわしやすい	18	12	16	10	6	5
25 おこりっぽい	12	17	10	12	6	7	57 気持がきずつけられやすい	7	11	14	15	8	2
26 なんとなく不安である	11	11	16	18	10	7	58 感じがピッタリしない	8	7	12	6	5	4
27 ものごとに自信がもてない	15	13	20	19	13	8	59 他人にかけ口をいわれる	3	5	10	10	2	0
28 やるきがでてこない	14	13	15	11	10	3	60 気づかれする	10	8	14	15	9	3
29 何事もためらいがちである	11	13	13	15	7	4	61 他人に相手にされない	1	2	1	2	0	0
30 悲観的になる	10	5	16	15	8	5	62 他人が信じられない	3	5	7	6	6	3
31 死にたくなる	5	4	9	7	0	0	63 他人にわるくとられる	2	5	9	10	2	1
32 自分がない感じがする	8	6	4	5	2	1	64 かわったものが見える	5	2	4	4	0	0

第3表はUPIテスト64項目に対する、2回の検査得点を集計したものである。個人的には少ない得点にても、深刻な情意の偏差を有し、要治療の対象となるものも、あり得るのであらうが、ここでは便宜的に各項目2回の検査にて、A・B・C各集団とも40%—50%以上を目やすとして、被検者の約半数以上の者が、選択した得点項目について、考察を試みることにする。

身体的機能面では6・22・38のいつも身体の調子がよく・活動的で・気分があかると積極的な機能態度を肯定している者は、Cの女子で50%あるが、他の集団では運動部集団としての得点率は低目であり、機能面ではむしろ、自律神経失調症的徴候をあらわしている。即ち1・4・17・33・49・50の頭痛がする・めまいや立ちくらみがする・眼がつかれる・胸やけや胃や腸が痛む・からだがつかれやすい・よく風邪を引いた感じがするという、いわば失調症的傾向の項目が検出される。

情意的には8・10・11・15・24・25・26・27・28・29・30の項目に比較的多数の得点者を出している。

気が小さく・とりこし苦勞をする・人に頼りすぎる・ひけ目を感じず・気分が変りやすい・いらいらしやすい・おこりっぽくなる・なんとなく不安で、ものごとくに自信がもてない・やる気がでてこない・何事もためらながちで・悲観的になる。

特に自分がない感じがする・死にたくなるという、うつ病的な心情を訴える者も、Aの男子で17%・27%、Bの女子で32%・20%もあることは、運動部員に対してスクリーニング並びに精神医学的診断の必要性を、強く表明していると考えられる。又部の常時の練習、或は合宿という集団生活においては、人間関係で自分を意識する・気をまわしすぎる・気持が傷つけられやすい・気づかれするという、55・56・57・58の項目も当然とはいえ、50%近くの者が意識しているもので、集団の雰囲気・集団規範・態度等に教化形成上の指導助言を適切に行うべきことを示している。

知的機能では12・13・14・16等記憶力が低下している・考えがまとまらない・根気がつづかない・決断力にとぼしい等知能障害ともいふべき徴候を訴える者も比較的多く、40%—60%の得点率である。これらの得点率でC集団は、A・B集団に比しやや得点率は低いが、それにしても身体的・情意・知的領域において、多様な失調的徴候を検出することができる。以上UPIテストの得点から、A・B・Cの3集団に共通する一般的な徴候を考察したのであるが、第4・5・6表は被検者を夫々個人別に、偏差値とUPI得点から比較したものである。

第4表はA校男子運動部員、第5表はB校女子運動部員、第6表はC校女子運動部員の、夫々個人別偏差値及びUPI得点集計表である。

男子部員の中で向性偏差値56以上やや外向的的特性を有する者と思われる8名中、因子偏差値の感情変易性高位者は、UPIテスト2回とも高得点を示し、しかも合宿前より合宿終了時の得点はいづれも高位で、強化合宿というスポーツ環境は、却って精神的な過重負荷となり、神経症的症状を出現せしめている。劣等感・神経質2因子の偏差値40台以下の内向的特性群を有する者も、同様な徴候をあらわすものと思われる。それは偏差値54以下の場合、各因子群の偏差値が低位になるに従って、UPI得点は高位となり、両向性の安定した向性偏差値を有する者の中においても、1—2の因子群で低位の場合明瞭にUPI得点は増加し、身体・情意・知能に多様な失調徴候が検出される。第2表で前述したように、身体的には頭痛がする・目まい立ちくらみ・眼がつかれる・胸やけ胃や腸が痛む・よく風邪を引いた感じがする等所謂自律

第4表 偏差値・UPI得点(男子個人別)

被検者	向性 偏差値	UPI得点		因子偏差値				
		1回	2回	社会的	思考的	劣等感	神経質	感情変易性
1	65	24	25	60	70	55	64	68
2	63	6	4	66	83	68	62	38
3	61	15	11	66	67	70	58	44
4	59	29	35	56	63	55	60	62
5	58	16	11	50	67	65	64	42
6	57	12	10	44	70	65	64	42
7	56	26	30	56	63	45	60	58
8	56	27	8	51	70	50	44	56
9	55	9	8	44	60	65	52	54
10	55	26	13	47	70	55	56	46
11	54	14	16	41	60	60	48	60
12	54	38	31	50	60	45	60	54
13	53	16	9	42	50	50	66	56
14	53	12	27	53	50	60	46	54
15	52	29	39	36	57	55	54	58
16	52	6	4	45	53	55	58	50
17	51	28	18	45	63	45	50	54
18	50	6	14	42	50	50	52	56
19	50	16	13	49	53	45	46	56
20	49	34	17	41	53	45	46	58
21	48	42	31	41	63	35	42	60
22	48	20	22	50	60	40	40	50
23	47	23	28	49	50	35	50	52
24	47	20	9	35	50	45	52	52
25	47	34	32	45	43	30	58	58
26	46	23	17	35	63	35	46	52
27	45	18	11	36	43	40	60	44
28	45	36	36	45	50	40	42	46
29	45	16	16	32	60	40	54	40
30	43	27	34	38	43	35	48	50

神経失調性の機能性のものであり、知的には記憶力の低下・考えがまとまらない・決断力にとぼしい等思考中枢の機能失調を訴えている。特に情意情動の心の面では、気が小さい・とりこし苦労・いらいらする・おこりっぽくなる・自信がもてない・不安でやる気がおこらない等多

第5表 偏差値・UPI得点 (女子B校)

被検者	向 性 偏差値	UPI 得点		因 子 偏 差 値				
		1 回	2 回	社会的	思考的	劣等感	神 經 質	感情変易性
1	56	13	15	69	63	50	40	58
2	56	26	23	51	57	60	40	73
3	55	12	17	56	50	70	60	40
4	54	45	41	66	53	30	58	63
5	54	30	24	63	53	50	48	58
6	54	18	17	42	67	55	55	50
7	53	31	30	61	57	35	48	63
8	52	27	29	50	53	45	45	65
9	52	48	39	49	70	35	48	66
10	52	17	12	51	70	40	50	50
11	51	19	18	51	53	40	43	68
12	51	23	22	51	50	30	50	75
13	50	24	20	32	50	55	56	56
14	50	22	23	36	50	50	50	53
15	50	29	27	45	53	30	56	66
16	49	32	43	41	43	40	66	58
17	48	33	31	57	53	25	44	60
18	47	29	30	47	53	40	42	52
19	46	24	19	36	43	40	50	60
20	45	28	23	51	50	25	40	58
21	44	51	55	41	37	40	45	58
22	44	21	28	45	40	45	38	53
23	44	30	21	49	40	35	40	55
24	43	26	23	36	43	35	43	60
25	38	25	20	34	50	35	30	43

第6表 偏差値・UPI得点 (女子C校)

被検者	向 性 偏差値	UPI 得点		因 子 偏 差 値				
		1 回	2 回	社会的	思考的	劣等感	神 經 質	感情変易性
1	59	18	9	54	70	63	54	53
2	58	18	19	61	67	50	56	56
3	57	17	6	59	57	50	58	60
4	56	12	6	50	70	50	52	56
5	56	23	17	61	57	63	46	55
6	55	11	12	54	50	60	56	54
7	54	35	14	49	58	55	51	55
8	53	31	21	69	60	40	44	50
9	51	17	17	47	47	55	50	56
10	51	28	17	41	60	45	38	52
11	50	31	26	46	63	28	51	61
12	49	28	15	51	53	48	48	48
13	48	21	14	39	47	45	52	55
14	47	21	11	32	30	40	57	64
15	46	20	9	54	47	45	36	48
16	39	31	20	42	50	35	40	29

岐にわたっており、活動的で快活であると思われる男子において、他人の視線が気になる・周囲の人が気になる・悲観的に死にたくなるといふ訴えは、正しく神経症の徴候であらう。このことは合宿時にあらわれる徴候ではなく、平常の部活動の時点で既に内在し徴候としてあらわれているものであり、第3表のUPI項目別得点で明瞭に物語っている。第5表は試合成績、向性偏差値等から判断して、普通高校一般の女子運動集団と推定されるが、向性偏差値50以上やや外向的特性を有する者において、個人的には相違があるが、因子群の劣等感・神経質で低位の者及び感情変易性の高位の者は、特にUPI得点高く、4・7・9の被検者は40台の得点で特に顕著である。

このことは偏差値49以下内向的傾向に進む者に対しては、益々強くあらわれている。因子群も夫々複合しあって、10名の被検者全員が、UPI得点は2回とも高位である。これ等の者は強度の練習・合宿には不適応者で、むしろレクリエーションとしてのスポーツ活動を実施し、カウンセリング的教育活動を実践すべきで、向性偏差値低位者を選手養成・競技力向上を中心とする運動部に入部させることは、精神衛生上特につしむべきことである。

第6表はC校女子の優秀な試合成績を有する運動集団で、向性偏差値平均51、構成員個々の偏差値も55以上高位者が、B校女子集団に対して比較的多く、性格的にスポーツ適正を有する部員集団であると推測される。しかもこの集団のみにみられる現象は、UPI得点が1回目より2回目が、かなり減少していることで、20台以上の得率が1回62.4%、2回18.8%と著しく減少していることである。個人別にみると16名の部員全員が、得点減少を示している。この現象を今回の調査で直ちに結論を出すことは、つしむべきであるが、単独或は合同合宿を数次にわたって経験し、合宿生活をするることによって、部員の情意の凝集が高められ、日常不安反応としての情意徴候が、却って安定化の方向をとり、合宿による馴れの現象が培養されたのではないかと推測される。しかしこの集団の中にも選手養成の運動集団としては、適格を欠ぐと思われる者も存在している。8・11・16の3名の部員は、その該当者ではなからうか。運動集団として情意的領域より考えると、比較的安定した特性の所有者で、めぐまれた集団であるが、UPI得点では、気が小さい・いらいらしやすい・なんとなく不安で・物事に自信がもてないとの訴えも多く、悲観的傾向も他の集団と同様30%—50%もあらわれている。これらの情意失調症状は、軽卒に神経症の徴候と断定することはできないが、少なくとも神経症の初期症状として例示されている、身体的には自律神経失調症群、情意的には気力がでなくなる・やる気がおこらない・いらいらする・おこりっぽくなる・記憶力が低下する・悲観的になる等彼等は、からだの徴候と心の徴候をともに強く訴えている。

4. 総 括

高等学校運動部員の精神衛生的徴候を研究するため、診断性向性検査とUPI検査を実施し、その結果について考察したのであるが、要約するとつぎのように結論することができる。

運動部員である運動愛好者は、性格特性として外向型であり、明朗・快活・愛想がよく・活動的・社会的であるという一般概念にとらえられ、生物学的な技術能力のトレーニングのみを

受けて来た。

しかし個々の事例で明かのように、向性偏差値が高く、外向的傾向を有する者については、因子群中特に感情変易性の高位者に、問題点は多く存在し、向性偏差値低位者の内向的傾向者については、5つの因子が夫々複合交連しているものの、特に劣等感・神経質の因子低位者に、UPI高得点が顕著にあらわれている。

要は運動部全般にわたって、精神医学的立場より、科学的検討を早急に実施し、クラブ活動本来の原点に立ち帰り、情意豊かな人間性の形成及び恢復の方途を志向すべきである。

参 考 文 献

1. 田中寛一：診断性向性検査手引
2. 榊原栄一：学生の精神衛生管理とUPIテストについて 厚生補導 1967・9
3. 丹羽劭昭：運動部集団とパースナリティの関係について 体育学研究 1966・11—1
4. 丹下保夫：合宿生活の分析。体育の科学 1953・3
5. 弘中栄子：クラブ活動と中・高体連の功罪 体育科教育 1970・5
6. 安永 浩：不安とノイローゼからだの科学（現代精神医学）1969・29

（昭和45年9月16日受理）